



## 畠田地区向こう三軒両隣、 一人の犠牲者も出さない 防災体制



福岡県北九州市若松区  
東28区市民防災会  
会長 古川 裕子



畠田公民館長  
古野 陽一

### 1 はじめに

若松区東28区市民防災会（以下「東28区」という。）は、北東に山が広がり、約300世帯が暮らす住宅地です。北九州市は、高齢化率が政令指定都市の中で最も高く、東28区においても約800人の居住者のうち200人以上の高齢者が一人暮らしや高齢者のみで暮らしています。また、出水期には市から「避難情報」が発令される年も多く、大雨に注意が必要な地域でもあります。

### 2 きっかけ

平成25年、福岡県が東28区の大部分を「土砂災害警戒区域」等に指定しましたが、地域の小学校での防災訓練に集まった住民は「たった4人」でした。私たちは、この状況に危機感を覚え、畠田防災実行委員会（6人で構成）を立ち上げ、すべての住民が主体的に防災に取り組むことを目指して活動を始めました。

まず、市の危機管理室に依頼し、住民向けの「土砂災害の危険等についての説明会」を開きました。これを契機に、住民参加型の災害図上訓練（DIG）を実施し、どこがどう危険なのかを住民同士で確認しあい、住民全員の防災意識の醸成を図りました。高齢者の多い畠田地区で、どのような避難体制をとれば全員の命が守れるか、みんなで検討を重ねました。

### 3 「畠田緊急ネットワーク」の構築

検討の結果、互いに助け合える関係を作り出すため、10～40世帯で構成される組を、さらに近隣3～8世帯のグループに分け、効率的な連絡網を作成した「畠田緊急ネットワーク」を構

築しました。

構築の目的は、早めの避難が必要な高齢者や障がいを持った方に電話や声掛けで確実に情報がいきわたること、高齢化・独居率の高い東28区で災害時に近隣世帯が協力して避難し、一人の犠牲者も出さないことです。

グループごとに「緊急連絡シート」を作成しています。それにはサポートが必要な世帯、予防避難対象者（レベル3で避難する方）、グループメンバーの緊急避難先等が網羅されており、早めの避難が必要な高齢者や障がいを持った方に電話や声掛けで確実に情報がいきわたるよう体制を整えました。

また、情報が古くならないよう、年度末から年度初めにかけて、各グループで「緊急連絡シート」の確認を行い、電話番号、転居や高齢者施設等への入所、新たに避難支援が必要になった人など情報を更新しています。これは毎年の恒例事業として継続する仕組みにしています。

### 4 グループ単位での避難訓練

平成28年から出水期前に東28区独自の防災訓練を行っています。「畠田緊急ネットワーク」が完成した平成30年からは、まず情報伝達訓練としてグループを通じて全世帯に連絡を回し、続けてグループ単位での避難、集合後は土のう作り、消火器取り扱い、救急搬送などの訓練を行っています。情報伝達訓練は新型コロナ禍中でも継続しました。

### 5 毎年、検討と反省を繰り返し、成長する訓練

防災訓練終了後には、住民の誰もが参加できる拡大市民防災会議を開き、訓練を振り返

